

令和 2 年 9 月 11 日現在

機関番号：11301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05624・19K20830

研究課題名（和文）戦後地域社会を中心とした皇族表象の研究

研究課題名（英文）A Study on representation of Japanese Royal family in post-war local areas

研究代表者

茂木 謙之介 (MOTEGI, Kennosuke)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：00825549

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では戦後の地域社会における皇族のイメージについて研究を行った。具体的には戦後のメディアと公文書において皇族がどのように描かれていたのかを分析し、それによって戦後の天皇制が如何なるものであったのかを考察した。研究遂行の関係上、戦前と現代の皇室についても資料収集と分析を行った。

研究成果として、単著1、書籍論文1、雑誌論文1、口頭報告4、その他2を得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

天皇と天皇制は近代日本を考える上で不可避のテーマであり、それは令和改元前後の状況をみてもわかるように現代社会を考える上で未だに意義を有する。だが天皇については資料的な制約も多いため、本研究では天皇の血族である皇族に注目し、またメディアの発達した近代以降という文脈を重視して特に皇族のメディア表象を分析対象とした。これによって、メディア社会の中の天皇制についてその性格の一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, I studied the image of the royal family in the post-war community. Specifically, I analyzed how the royal family was represented in the postwar media and official documents, and considered what the postwar empire system was. As a result, I collected and analyzed the prewar and modern royal families.

As research results, I presented 1 book, 1 book article, 1 journal article, 4 oral reports, and 2 others.

研究分野：表象文化論

キーワード：天皇 皇族 皇室 地域社会 戦後 島嶼部 ナショナリズム 表象

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで昭和戦前戦中期を中心に地域社会における皇族表象の研究を行ってきたが、そこでは分析対象が戦前戦中期という天皇崇敬の高揚した時期に限られているという問題点があった。より広範に近現代天皇制を見渡すためには、戦後、言論の自由化や新皇室典範の制定、11宮家の皇籍離脱などを経て、皇室のスタイルが激変する中で、特に地域社会において皇族がどのような存在たり得ていたのかについて明らかにする必要があり、それを分析しようとしたのが本研究開始当初の背景である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、特に戦後地域社会の皇族表象を検討することを通して、近現代天皇制の連続と分断とを明らかにすることである。請者はこれまで昭和戦前戦中期を中心に地域社会における皇族表象の研究を行ってきたが、そこでは分析対象が戦前戦中期という天皇崇敬の高揚した時期に限られているという問題点があった。より広範に近現代天皇制を見渡すためには、戦後、言論の自由化や新皇室典範の制定、11宮家の皇籍離脱などを経て、皇室のスタイルが激変する中で、特に地域社会において皇族がどのような存在たり得ていたのかについて明らかにする必要があった。

また、現在の象徴天皇制研究においては、戦後の特殊性が殊更に重視される傾向にあると言える。例えば同研究潮流における最新の成果である富永望や河西秀哉の研究では、戦後政治や新憲法の下での天皇制の新たな取り組みが焦点化され、その際には天皇制の戦前からの連続性について十分に検討されているとは言い難い。なかでも戦前の天皇神格化言説が戦後社会において如何に転換、乃至存続したのかについては、従来1946年の天皇の「人間宣言」以降の転換が語られるにとどまり、その余白について明らかにする必要があると見えるだろう。

### 3. 研究の方法

戦後のメディアと公文書において皇族がどのように描かれていたのかについて史料収集を行い、それへの言説分析を行った。

具体的には、まず全国・地域メディアにおける皇族表象の比較検討として昭和期の雑誌資料を中心に国立国会図書館やお茶の水図書館において調査を行い、そこに如何なる皇室像が浮上してくるのか、それが地域間で如何なる差異をもちうるのかを検討した。次に宮内庁および地域行政による公文書の調査・分析として宮内庁書陵部の宮内公文書館や地域の公文書館が所蔵する皇室関連の公文書を検討し、皇族に関する表象が如何なる制度内で成立していたのかを分析した。そして旧宮家関係者および諸団体関係者への取材を行い、旧宮務官らへの聞き取りによって、皇族側の戦略を考察するとともに、特に地域社会において皇族を如何に表象しようとしていたのかという欲望を検討した。

同時にこれらについては資料体としての公開のための作業にも着手している。

### 4. 研究成果

メディア分析としては昭和期の雑誌メディアの検討と、令和改元に先駆けて展開していた諸表象について史料収集を行い、研究分析の対象とした。まず、昭和期の雑誌メディアとしては嘗て皇族イメージを大量に展開していた雑誌『婦女界』について集中的に分析を行い、昭和改元に前後して良子女王(皇太子妃、のちの香淳皇后)を中心として皇族女子の表象がいかなる形で展開していたのかを分析した。この成果については、日本近代文学会秋季大会でのパネル報告(於岩手県立大学、2018年10月28日)で口頭報告を行い、その後会場内外で受けたコメント等を踏まえ「改元の暴くもの 大正末～昭和初期における女性皇族の表象をめぐって」として論文化した(『足利大学研究集録』(54)、2019年3月)。また令和改元に先立って、秋篠宮文仁親王の発言や秋篠宮家の婚姻をめぐるメディア報道、天皇誕生日のコメント、即位30周年の記念式典等における諸表象について記録し、特にソーシャルネットワークワーキングサービスに注目しつつ分析を行った。その成果は学術雑誌論文「狂乱と共犯 令和改元におけるメディア表象をめぐって」(『歴史評論』(835)、2019年11月)および解説記事「天皇制」(『現代思想』47(6)、2019年4月)に結実した。

次に地方行政機関が作成保存した公文書等の史料の分析については、長崎県、沖縄県、福島県に史料調査を行い、天皇・皇族の訪問に関連する史料を収集した。特に戦後空間において多様な歴史経験を経た地域と天皇・皇族との接触は、地域に内在する諸問題を逆照するものであった。その成果の一端は書籍「『雪冤』から『開発』へ 戦前戦後福島県会津地方における秩父宮妃勢津子の表象をめぐって」(河西秀哉・瀬畑源・森暢平編『地域から見える天皇制』吉田書店、2019年12月)となった。

そして、本研究の方法・視角について再検討を行い、地域に注目することの積極性およびメディア研究の方法をとがらせることに注力した。その一端は「『僻地』・『周縁』から裏返す 島と天皇と幽霊」(『ユリイカ』2018年8月号)として発表したほか、口頭報告(「オカルト天皇(制)」論序説 1980年代雑誌『ムー』の分析から」(日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会、2019年11月24日)および「幻想を編む 雑誌『幻想文学』における編集思想をめぐって」(日本近代文学会秋季大会、2019年10月27日)となった。

これらの研究課題をまとめるかたちで単著『表象天皇制論講義 皇族・地域社会・メディア』(白

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9 ( 共通 )

澤社、2019 年 6 月、ISBN: 9784768479766 ) を上梓した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 茂木謙之介	4. 巻 835
2. 論文標題 狂乱と共犯 令和改元におけるメディア表象をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 38 - 49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木謙之介	4. 巻 54
2. 論文標題 改元の暴くもの 大正末～昭和初期における女性皇族の表象をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 足利大学研究集録	6. 最初と最後の頁 84-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 茂木謙之介
2. 発表標題 民俗儀礼としての大嘗祭（コメント）
3. 学会等名 くびき野カレッジ特別講座大嘗祭（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木謙之介
2. 発表標題 幻想 を編む 雑誌『幻想文学』における編集思想をめぐって
3. 学会等名 日本近代文学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木謙之介
2. 発表標題 “オカルト天皇（制）”論序説 1980年代雑誌『ムー』の分析から
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木謙之介
2. 発表標題 改元の暴くもの
3. 学会等名 日本近代文学会秋季大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 茂木 謙之介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 288
3. 書名 表象天皇制論講義	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考